

# CASBEE<sup>®</sup>さいたま2016年版

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)浦和区岸町七丁目Ⅱ新築工事	階数	地上12F、地下0F
建設地	さいたま市浦和区岸町七丁目4番-1.49-1.49-3	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	62人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2022年10月5日
敷地面積	536㎡	作成者	有限会社木村・久世建築設計事務所 木村 公信
建築面積	284㎡	確認日	2022年10月5日
延床面積	2,919㎡	確認者	有限会社木村・久世建築設計事務所 木村 公信



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.4</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 100% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・㎡)</p> <p>②建築物の取組み 81% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・㎡)</p> <p>③上記+②以外の 81% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・㎡)</p> <p>④上記+ 81% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・㎡)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> <b>Qのスコア = 3.2</b></p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> <b>Q1のスコア = 3.4</b></p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> <b>Q2のスコア = 3.2</b></p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> <b>Q3のスコア = 3.0</b></p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> <b>LRのスコア = 3.4</b></p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> <b>LR1のスコア = 3.8</b></p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> <b>LR2のスコア = 3.0</b></p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> <b>LR3のスコア = 3.2</b></p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>本建物は、浦和駅から徒歩10分の場所に計画された共同住宅である。敷地内には緑地を設けて、自然環境の保全や創出に配慮した計画としている。</p>		<p><b>その他</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開口部の遮音性能はT-2等級とし、居室の遮音性に配慮する。</li> <li>各住居の窓は複層ガラスとし断熱効果を高めている。</li> </ul>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>劣化等級3を満足し、躯体の長寿命化に配慮する。</li> <li>耐用年数の長い配管材料を採用し、配管材の長寿命化に配慮する。</li> </ul>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>敷地内に中高木をバランス良く植栽し、生物環境の保全と創出に配慮する。</li> </ul>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>LED照明、潜熱回収型給湯器を採用し、省エネルギーへ配慮する。</li> </ul>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクル材を採用し、資源の有効活用に配慮する。</li> <li>ノンフロン断熱材を採用し、ODP値及びGWP値低減へ配慮する。</li> </ul>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広告物照明の設置はせず、光害の抑制に配慮する。</li> </ul>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEEさいたま2016年版**  
**(仮称)浦和区岸町七丁目Ⅱ新築工事**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■評価ソフト:

CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>							0.40		-	<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.0</b>	0.15	<b>3.2</b>	1.00	<b>2.8</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音						<b>1.0</b>	0.50	<b>3.4</b>	0.50	
1 開口部遮音性能		<住居>サッシ遮音等級はT-2				<b>1.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	<b>3.0</b>	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	<b>2.0</b>	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	<b>3.0</b>	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>1.3</b>	0.35	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.2</b>
2.1 室温制御						<b>1.7</b>	0.50	<b>4.0</b>	1.00	
1 室温						<b>1.0</b>	0.63	-	-	
2 外皮性能		<住居>住宅性能表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4相当				<b>3.0</b>	0.38	<b>4.0</b>	1.00	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式						<b>1.0</b>	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.2</b>	0.25	<b>3.7</b>	1.00	<b>3.5</b>
3.1 屋光利用						<b>3.0</b>	0.30	<b>3.4</b>	0.50	
1 屋光率		<住居>屋光率:4.0%				<b>3.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.50	
2 方位別開口						-	-	<b>1.0</b>	0.30	
3 屋光利用設備						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20	
3.2 グレア対策						<b>2.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50	
1 屋光制御		<住居>カーテンと庇(上階バルコニー)を組み合わせることでグレアを制御				<b>2.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15	-	-	
3.4 照明制御		<共用>タイマーによる自動照明制御				<b>5.0</b>	0.25	-	-	
<b>4 空気環境</b>						<b>4.0</b>	0.25	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.9</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		<共用><住居>全体的にF☆☆☆☆の建材を採用				<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
4.2 換気						<b>4.0</b>	0.40	<b>3.6</b>	0.38	
1 換気量		<住居>基準法の1.2倍以上の換気量を確保				<b>3.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	0.33	
2 自然換気性能		<住居>居室面積の1/8以上の開閉可能な窓を確保				-	-	<b>4.0</b>	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		<共用>汚染源の少ない方位かつ各種排気口と異なる方位				<b>5.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.5</b>	0.40	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.4</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		<住居>Gbitクラスの通信が利用可能				-	-	<b>5.0</b>	1.00	
3 バリアフリー計画						<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観						-	-	<b>3.0</b>	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						<b>1.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	0.50	
1.3 維持管理						<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性のある床材の採用、段差のない設計等				<b>4.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.1</b>	0.30	-	-	<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級」における等級3相当				<b>5.0</b>	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>2.0</b>	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い、シートフローリングやビニルクロスを採用				<b>4.0</b>	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種のうち、2種類にB以上を使用かつEは不使用				<b>5.0</b>	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>2.0</b>	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						<b>1.0</b>	0.20	-	-	
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスはSクラス				<b>5.0</b>	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.2</b>	0.30	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
3.1 空間のゆとり			-	-	<b>3.0</b>	0.50	
1 階高のゆとり			-	-	<b>3.0</b>	0.60	
2 空間の形状・自由さ			-	-	<b>3.0</b>	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	<b>3.0</b>	0.50	
3.3 設備の更新性			<b>3.2</b>	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新、修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.8</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当	<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
2 自然エネルギー利用			<b>2.0</b>	0.10	-	-	<b>2.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.88	<b>4.4</b>	0.50	-	-	<b>4.4</b>
4 効率的運用			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
1 水資源保護			<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
1.1 節水			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>3.2</b>	0.60	-	-	<b>3.2</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		タイル(外壁)、ビニル系床材(管理室床・バルコニー床)	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0.01未満、GWP=50未満の断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
1 地球温暖化への配慮		LCGO2排出率=81%	<b>3.7</b>	0.33	-	-	<b>3.7</b>
2 地域環境への配慮			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.5</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		「光害対策ガイドライン」の一部を満たし、広告物照明はなし	4.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	